

## 職員による自己評価

## A環境面

- ・限りあるスペースを有効に活用している。

## B児童への支援内容

- ・職員間での当日の支援内容など常勤職員のみ支援後の振り返りや気づいた点は共有できているが、非常勤の職員に関してはできる日が少ない。

## C関係機関との連携

- ・コロナ禍ではあったが、自立支援協議会の集まりも活発に行われていた。ZOOM や対面とより良い方法で行われたが、分散登校の期間が長く、常に子供たちへの支援が入り、参加は減ってしまったが社協・こども支援課との連携は深まった。

## D保護者への説明責任・信頼関係

- ・連絡帳でのやりとり、面談や日頃の送迎時に情報はしっかりとお伝えしている。
- ・保護者会は、コロナ禍以前は年一回開催していたが、保護者の参加も少なかった、現在は難しい状況である。

## E非常対応

- ・避難訓練の実施
- ・スタッフ・子供たちの布マスクから不織布マスクへの切り替えが出来た。

## 保護者による評価

## A環境面

- ・活動スペースへの意見はなく、十分確保されている。十分なバリアフリーへの配慮はできていない。

## B児童への支援内容

- ・いつも様々な内容を考えて貰っています。
- ・ありがたいです。
- ・障がいのない子供たちとの活動は、必要性を感じない。
- ・コロナ禍の為、活動制限もあり難しい。

## C事業所からの情報発信

- ・ニュースレター・ブログ、送迎時、面談等で情報を受け取っている。
- ・満足している。
- ・安心感がある。

## D非常対応

- ・避難訓練 2 回の実施、非常時のマニュアル一覧表を配布。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

子供たちの個々のニーズに合わせた集団の活動で、プログラムを工夫し固定化されないように工夫されている。

子供の状況を保護者に伝えあい、共通理解が持っている。

ニュースレターやブログでの情報発信がある。

障がいのない児童との交流は持っていない。

## 【相違点】

子供への感染拡大となり、今までの布マスクから不織布マスクへお願いをしたところ、全員が切り替えてくださり、現在も全員が不織布マスクを付けている状況です。支援の内容に対して満足いただけない方もいらっしゃると思いますが、ご理解頂けていると思います。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・常勤・非常勤の職員の入れ替わりがなく、継続的な支援が出来ている。  
(保護者との信頼関係があり、立ち上げ時からご利用の4人の卒業生を社会に送り出せた。)
- ・コロナ禍の中で、距離を保ちながら工夫し静と動の活動を組み入れ入る。
- ・リトミック・ダンスの先生を招いての療育の継続。
- ・卒業後の居場所をフォローしている。  
(紙芝居ボランティアの参加等)

### 事業所の改善点

- ・非常勤スタッフへの研修参加。
- ・支援後の振り返りの徹底。
- ・標準化したアセスメントツールの検討。

### 事業所の改善への取り組み

- ・業務分散にて昨年度少なかった自立支援協議会への出席。
- ・非常勤スタッフの支援後の一日の振り返りや研修会への参加の時間確保。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・2021年度は第五波で急速に子供たちへの感染が拡大して、長い分散登校が続きました。慣れない日常でしたが職員・子供たちともども乗り越えて、一年が終わったという感じでした。9月からは布マスクから不織布マスクへ切り替え、保護者の方にご理解頂き現在も続ける事が出来ています。まだまだマスクをはずす事は出来ませんが、これからも協力し助け合って、楽しく元気にイキイキと活動し、帰る時は笑って終われるように過ごして行きたいと思います。また、3月4人の卒業生を見送る事が出来、卒業後の支援を何かの形で続けられたらと思います。

2021年度利用

事業所名 児童デイサービス・アニマート菊名

担当者 管理者 山崎 珠美